

注意点 1



4分でカウントを取って リズムのズレを意識しよう!

ポリリズムとは、複数のリズムが同時に進行していくリズム・パターンのことを指す。著者の私感になるが、ポリリズム・フレーズの醍醐味は、複数のリズムが同時にスタートして、ズレながら進行していきながら、ある瞬間再びピッタリ合うところにあるのではないだろうか。したがって、実際の演奏時では、いかにこの「ズレ」をキープできる【註】かがポイントになるだろう。このメイン・フレーズでは、ドラムは通常の4拍子のまま進行するが、ギターは16分音符が7音分（休符を含む）で1つの区切りとなっている（図1）。リズムがズレていることを意識する必要があるので、4分音符でカウントを取りながら演奏するように心掛けよう！

図1 ポリリズム

・メイン・フレーズ1&2小節目



16分音符7音分(休符を含む)で1つの区切りとなる。
4分音符でカウントを取りながら演奏しよう！

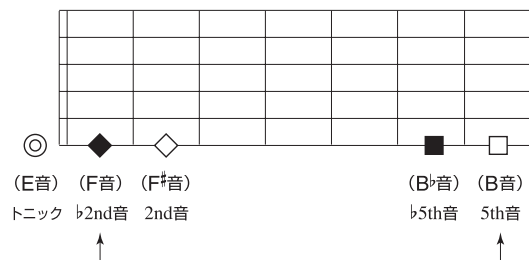
注意点 2



独特な緊張感を与える ♭2nd音と♭5th音

メイン・フレーズのような6弦開放のE音を土
 台にしたヘヴィ・リフでは、6弦1フレットのF
 音や6弦6フレットのB♭音を活用することが多
 い。それはE音を基準にして考えると、F音は
 b2nd音、B♭音はb5th音というスケール上では
 緊張感の高い音になるからだ(図2)。これら
 の音は経過音的な使い方になることが多いの
 で、フィンガリングもクロマティック・スケール
 を強くバウンと近くする。したがって、実際の
 演奏時には左手の各指を均等に使って抑弦
 するように心掛けてほしい。b2nd音やb5th音
 は使いこなせるようになると、フレーズに独特
 の暗さやオリジナル感を加えられるようになる
 ので、オリジナル・ソングを作っているギタリス
 トは必ず覚えよう。

図2 ♭2nd音と♭5th音



この2音は、E音をトニックとすると、
スケールから外れたような緊張感のある音になる。

～コラム5～

教官の戯れ言

90年代以降、ポリリズムを活用しているヘヴィ・ロック・バンドが増えてきている。ここでは著者も気に入っている2つの代表バンドを紹介しよう。1つ目はワール。彼らは圧倒的なテクニクを武器にヘヴィ・ロックの枠組みを越えた緻密かつ多彩なサウンドを聴かせてくれる。メロディ・ラインも美しく、ロックの究極の進化形と言えるだろう。2つ目は、スウェーデンのエクストリーム・メタル・バンド、メジュガー。8弦ギターを駆使したヘヴィ・リフと複雑なリズムが見事に融合したサウンドは圧巻のひと言だ。速強きとは異なる“超絶感”をぜひ体感してもらいたい。

**著者・小林信一、かく語りき
ツール&メシュガー編**



ツール
『10,000デイズ』

重厚なサウンド、複雑なリズム展開、多彩なメロディが渾然一体となって迫ってくる充実作。奥深い構築美を堪能できる1枚だ。



メッシュガー
『ナッシング』

4thアルバム。全体的にミディアム・テンポ・ナンバーが多いが、変拍子とポリリズムを多用した怒濤のメタル・サウンドを轟かせる。

【“ズレ”をキープできる】ドラム・ビートに引っ張られて、ギター・フレーズが崩れてしまうと、ポリリズムは完成しない。ほかの楽器をしっかり聴きながらも惑わされることなく、我が道を行くべし!